

目次

建設機械化に生きる……………青木益次…1  
 昭和40年度官公庁の事業概要(その3)  
 VII. 昭和40年度首都高速道路公団の事業概要……………松田豊三郎…2  
 VIII. 昭和40年度阪神高速道路公団の事業概要……………長谷川五郎…6  
 IX. 昭和40年度農地開発機械公団の事業概要……………宮門政雄…9  
 昭和38年、39年における土木建設機械ならびに  
 関連機械の生産動向……………今井康信…13

**グラビヤ—大阪市を中心としたシールド工事**  
 東京都内における国鉄の地下工事……………菅原操…19  
 北陸本線糸魚川～直江津間の線増工事……………堀内義朗…25  
 建築工事におけるコンクリートポンプの使用……………横木尚二…29  
 軟弱地盤用の施工機械……………佐野文彦…34  
 昭和39年度官公庁・建設業界で採用した新機種(その2)  
 IV. 運輸省で採用した新機種……………両角常美…41  
 V. 建設業界で採用した新機種……………斎藤二郎…44  
 「建設機械化講座」第27回 現場フォアマンのための土木と施工法  
 IX. 路盤工(その2)  
 2. セメントによる安定処理工法(1)……………田中淳七郎…51  
 三次自動車高速試験場の建設工事……………中国四国支部…57  
 施工調査委員会  
 セメントコンクリート舗装版破砕工事施工報告……………絵垣正雄…64  
 前田晋浩  
 縄田政浩

「新機種紹介」  
 日立—ジョンディア産業用トラクタ……………岡田元…71  
 「部会報告」  
 大型特殊自動車ロードローラ、タイヤローラの  
 定期点検整備実施要領等について……………製造業部会…73  
 「文献調査」  
 第1回モスクワ国際建設機械展……………施工部会…79  
 文献調査委員会  
 「建設機械化研究所抄報」  
 試験研究報告(No. 4)……………建設機械化…81  
 研究所  
 ニュース……………(編集部)…83  
 行事一覧・編集後記……………(長瀬・小竹)…84

◇ 表紙写真説明 ◇

日本車輛製造株式会社製  
 NQ-500型マーシドラグライン

日熊工機株式会社

本機は今日熊眉の急となりつつある干拓・埋立等、湿地帯、ヘドロ地帯における工所用機械の需要に応えるため、日本車輛製造(株)が米国タヨリティ・マーン社との技術提携により完成した画期的な機械である。タヨリティ・マーン社の優れた技術と多年の経験により従来の陸上用土木機械としてのドラグラインを、今までどんな機械も入り得なかった低湿地、ヘドロ上、さらに水上にまでも持ち込むことを可能にしたことは、土木機械の分野に一時期を画したといえる。本機の主な特徴は以下のとおりである。

1. 各80枚の耐食性軽合金製チャンネルを浮舟のまわりにチェーン駆動して陸上・ヘドロ上・水上を自由自在に走行できる。
2. ドラグライン・フロントアタッチメントの交換により、簡単にグラブシベル、クレーン等として使用できる。
3. 組立、分解が非常に簡単に輸送も容易である。
4. 0.4m<sup>3</sup>のバケットを有し、低コストで高い作業能率を上げることができる。
5. 足回りは重量に比べ幅が広く、軟弱地盤上、水上における作業においても安定性が非常に高い。

— 主な仕様 —

形 式	NQ-500型	出 力	53 PS/2,000 rpm
主 要 寸 法		最大トルク	22.5 kg-m/1,800 rpm
履帯全長	7,772 mm	エンジン(下部走行用)	日野 DM100型、水冷直列4サイク ル予燃室式ディーゼル
履帯全幅	5,672 mm	形 式	
輪間距離	3,962 mm	出 力	60 PS/2,400 rpm
タンブラ中心距離	7,165 mm	最大トルク	22.5 kg-m/1,800 rpm
浮 舟 幅	1,704 mm	走 行 速 度	
全 重 量	17,500 kg	1速 主として急こう配	1.2 km/hr
接地圧	0.093 kg/cm <sup>2</sup> (浮舟 30mm 高さ)	2速 一般走行	2.5 km/hr
ブーム長さ	9.5 m	3速 やや硬いヘドロ地	4.5 km/hr
バケット容量	0.4 m <sup>3</sup>	4速 ヘドロ地または水中	8.1 km/hr
エンジン(上部巻上げ装置用)	日野 DM100型、水冷直列4サイク ル予燃室式ディーゼル	登 坂 能 力	(水中 1~3 km/hr) 30°
形 式			